

MOTOR SPORTS

CLUB

B

RALLY / GYMKHANA / DIRT TRIAL&more... "EXCITING" MOTOR SPORTS MAGAZINE

VOL.34

**FREE
無料**

Bライセンス
モータースポーツPR
フリーペーパー



お気軽モータースポーツ、“オートテスト”にチャレンジしよう!

Bライセンス取得ガイド&全国Bライモータースポーツ競技場ガイド

2020年全日本ラリー／ジムカーナ／ダートトライアル選手権最終戦ダイジェスト

波乱に満ちた2020シーズン、最終戦で続々と王座決定!



モータースポーツ専用の公式Facebookはコチラ
<https://www.facebook.com/YRCmotorsports/>

ADVAN

For Rally & Dirt-Trial



For Rally & Gymkhana



YOKOHAMA



[製品の詳細はこちら]
<https://www.yokohama.com/product/tire/hobby/>

[動画はこちら] <https://www.youtube.com/TheYokohamaRubber>

横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 <https://www.y-yokohama.com> 月に一度は空気圧の点検を

未来への挑戦

Challenge to the Future

その壁の向こう側へ



ENDLESS
Challenge to the Future

株式会社 エンドレスアドバンス ENDLESS ADVANCE

■本 社 〒385-0013 長野県佐久市横和1012-1
TEL.0267-68-6888 FAX.0267-68-5223

■ショールーム 〒385-0014 長野県佐久市三河田522-3
TEL.0267-67-0535 FAX.0267-67-0697

■アドバンスガレージ 〒384-0303 長野県佐久市下小田切7-2
TEL.0267-77-7628 FAX.0267-78-3110

今季、舗装ではややスピードを欠いていた新井大輝／小坂典高組のWRXだったが、唐津を得意とする奴田原文雄と互角の速さを見せて、逆転優勝。ドラ／ナビ揃って初の全日本王者に輝いた。



JRC

合計4戦に短縮の2020年は九州・佐賀で決着。 JN1は連勝の新井大輝WRXが全日本初戴冠!

2020年 JAF全日本ラリー選手権第3戦(最終戦)
Sammyツール・ド・九州2020in唐津

開催日: 2020年11月27~28日 開催場所: 佐賀

20 20年の全日本ラリー選手権は開幕戦として予定されていたスノーラリー、Rally of 嬬恋が前年の秋に現地に襲った台風による被害のために中止を決定。第2戦の新城ラリーは新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて無観客で開催と、シリーズは波乱含みのスタートとなった。

4月以降に開催が予定されていたラリーは中止・延期となり、シリーズの再開は7月下旬のラリー丹後まで足踏みとなった。9月には今季唯一のグラベル戦であるラリー北海道が開催されたが、その後は再びblankを余儀なくされ、4月から11月に延期されたツール・ド九州in唐津が事実上の今季の最終戦として開催された。

全日本ラリーは通常は3日間で開催されるが、今回は金曜午前にレッキを行い、午後3時から競技がスタート。土曜午後にはゴールを迎えるという2DAYイベントとして開催された。勝敗を決するSSは金曜にナイトステージを含む2本、土曜は3本のSSを3ループする計9本が用意された。

最高峰クラスのJN1クラスは、新城で奴田原文雄が優勝。丹後では鎌田卓麻が、ラリー北海道では新井大輝がそれぞれ優勝と3戦ともウィナーが入れ替わった。結果、ポイントリーダーとして唐津に臨んだのは

新井大輝だったが、他の2人の優勝経験者や、新井大輝の父親で全日本2連覇中の新井敏弘もチャンピオン獲得の権利を持って参戦と、王座の行方はまったく予想がつかない状況の中で最終戦は始まった。

金曜のLEG1でまず速さを見せたのは2019年の唐津を制した奴田原だった。10kmの林道を2度走るこの日、奴田原はSS1でベスト、SS2でもセカンドベストと好タイムを連発して首位で折り返す。4.2秒差で新井大輝が続き、ナイトステージとなったSS2でベストを奪った勝田範彦が6.9



1. LEG1で首位で折り返した奴田原文雄／佐藤忠宣組だったが、SS6で痛恨のスピン。勝利を逃す結果となった。2. 今季は不本意なシーズンとなった勝田範彦／石田裕一組だが、最終戦では“唐津マイスター”の走りが復活、3位を得た。3. 波乱のシーズンとはなかったが、JN1はクラスは若い2人が栄冠を手繰り寄せるシーズンとなった。4. 5. JN2は中平勝也／行徳聡組が前戦から2連勝。中平はJN2の1年目で初の全日本タイトルを手にした。6. JN2の2位はヴィッツGRMNをドライブした中村英一／大矢啓太組が入賞。大矢はナビゲーターチャンピオンに輝いた。



秒差の3番手でこの日を終えた。

奴田原のスピードは土曜のLEG2に入っても衰えず、この日の最初のステージとなるSS3でもベストを奪う。この奴田原に食

らいついたのは新井大輝ただ一人だった。4.6秒差まで水を開けられた新井大輝はSS4から反撃を開始。このSSで0.6秒、奴田原を下すと、続く

SS5では2秒の差をつけ、奴田原に2秒後方まで迫った。そしてSS3のリピートとなるSS6では自らの1本目のタイムを4.6秒も詰める激走を見せて3連続ベストを奪う。

一方の奴田原はこのステージで痛恨のスピン。新井大輝に15秒遅れる致命的

なロスを喫してしまう。奴田原はその後、4本のSSでベストを奪って追撃したが、結果的には今回一番の勝負所となったSS6で渾身のベストを叩き出した新井大輝が逃げ切って優勝。全日本初王者に輝いた。

また、86/BRZのワンメイク状態で競われたJN3クラスも、JN1クラス同様の劇的な展開となった。LEG1をトップで上がったのは全日本V2を狙う山本悠太だったが、その山本はSS3でコースアウト。代わってポ

イント首位の竹内源樹のBRZがトップに立つが、LEG1を4番手で折り返した曾根崇仁がSS4から猛追撃を開始。5連続ベストで竹内を抜き去り、首位に浮上する。

しかし竹内もSS9でベストを奪って首位を奪還。その座を守って最終のSS11に挑んだが、ここで曾根が竹内を6秒差で下す圧巻のベストタイムをマークして再逆転。土壇場で優勝を勝ち取った曾根が、3度目となる全日本タイトルを決めた。



前戦ラリー北海道では壮絶なバトルを展開した新井親子だが、今回は新井大輝が優勝。父親が2年間守ってきた全日本タイトルを引き継いだ。

7.11.JN3クラスは最終SSで大逆転劇を演じた曾根崇仁／竹原静香組がチャンピオンも手繰り寄せた。8.9.JN4は高橋悟志／立久井和子組がLEG1で築いたマージンを保って逃げ切り、シーズン2勝目を飾った。10.JN5の天野智之／井上裕紀子組は優勝は取り逃がしたものの、今季もタイトル防衛に成功。12.JN5の小濱勇希／東駿吾組はヤリスのポテンシャルを見つけて快勝した。13.JN3の竹内源樹／木村悟士組は2位でラリーを終えた。14.JN4内藤学武／小藤桂一組はシーズン2勝目は果たせず2位。しかしナビの小藤がナビゲーターチャンピオンを獲得。15.西川真太郎／原田晃一組はLEG2でペースを上げてJN4で3位獲得。16.JN3長崎雅志／秋田典昭組もLEG2で盛り返して3位に入った。17.JN6ではノートの兼松由奈／美野友紀組が3位に食い込んだ。18.JN5の3位には地元福岡の岡田孝一／石田一輝組が入賞した。19.アクアで健闘する海老原孝敬／遠藤彰組はJN6で堂々の2位入賞。20.21.JN6ではLEG2で驚異の追い上げを見せたレディスコンビの水原亜利沙／高橋美悠組ヤリスが逆転勝利。ともに全日本初優勝を飾った。



1,2. PN1クラスは王座を争う二人を尻目に速さを見せつけた森嶋昭時が優勝。今季はスポット参戦に留まったが、過去4度の全日本タイトルを持つ強者だ。3. PN1の2位には期待の若手、SHUNが入った。4. PN4の2位にはベテラン茅野成樹が入賞。5. 2016年にSA1のチャンピオンに輝いた若林隼人も全日本期待の若手の一人。PN3クラスに移って、待望の初勝利を挙げた。6. 今季2勝目は果たせなかった天満清だが、PN3でランキング2位を獲得。7. 開幕3連勝でチャンピオンは確定済みのPN4野島孝宏は最終戦も制して満点チャンピオンを達成。



20 20年の全日本ジムカーナ選手権の最終戦は11月7～8日に富山県のイオックスアローザスポーツランドで行われた。シリーズとしては4戦目の開催。当初予定されていた全8戦のシリーズはその半分の数となったが、事実上の開幕戦が8月下旬に行われたため、

実質3か月にも満たない超短期決戦で雌雄を決することになった。

イオックスでの開催は2年ぶり。これまでもイオックスはシリーズの後半戦で開催されることが多く、2年前は酷暑の8月下旬に開催された。過去、10月に最終戦を受け持ったこともあったが、11月上旬の開催は

これまでなかった。

イオックスアローザは冬場ともなればスキー場として賑わう北陸のスノーリゾート。11月ともなれば気温もグッと冷え込むため、選手・関係者にとっては、想定外のコンディションとなることも懸念された。しかし、公開練習の土曜に雨が降ったものの、決勝当日は大きな気温の低下はなく、各選手とも果敢なアタックを見せた。

規定により、2020シーズンは全4戦が有効となったため、今回の最終戦を前に、早くも3クラスでチャンピオンが確定してい

た。残る6クラスのタイトル争いの最終決戦がイオックスに持ち込まれた。

そのひとつ、PN1クラスは現行のNDロードスター 15台による戦いとなった。ポイントリーダーは8月の開幕戦を制した斉藤邦夫だが、その後は同じ関東の箕輪雄介が2連勝し、波に乗っている。ミニサーキットのように基本的なコースレイアウトを持たず、パイロンのみでコースを設定するイオックスのようなフルパイロンのレイアウトは、関東のドライバーが最も得意とするだけに、この二人によるトップ争いが十分に予想さ

2020年 JAF 全日本ジムカーナ選手権第8戦 (最終戦) SUPER GYMKHANA IN IOX-AROSA

開催日：2020年11月7～8日

開催場所：イオックスアローザスポーツランド（富山県南砺市）

JGC

2020シーズンは実質3か月の超短期決戦。 最終戦イオックスはフルパイロンで白熱バトルに!

2020年はロードスター RF勢の速さが目立ったPN3クラスは、群馬在住でBRZをチョイスする若林隼人が逆転優勝を飾った。





8.9. SA・SAX1クラスは今季はどん底からのスタートとなった小武拓矢が最終戦を制して初のタイトルを獲得した。10.ベテランの安木美徳がSA・SAX1で2位に入賞。11.前戦でSA・SAX2の全日本3連覇を決めた沖縄の高江淳は2位でゴール。12.13.4WD勢が圧倒的優勢のSCクラスで勝ったのは2WDのS2000を操った広瀬誠。絶妙なパイロンワークが光った。14.SA・SAX3クラスの久保真吾も4戦全勝を飾り、2度目の全日本タイトルに花を添えた。15.SA・SAX4では関東の高瀬昌史が王者、津川信次を破る大金星を挙げた。16.SA・SAX3で今季2度目の2位獲得の安部洋一はランキングも2位を確保した。17.SCのチャンプ候補だった大橋渡は2位に留まり、今季は未勝利に終わった。2021年の巻き返しが期待される。18.津川信次とタイトル争いに臨むことになった飯坂忠司はSA・SAX4で2位入賞を果たした。19.20.後半の2戦を連覇したSA・SAX2の若林拳人は、PN3を制した兄の隼人とともに兄弟で2クラスを制する快挙を達成した。

れた。
第1ヒートのトップを奪ったのは箕輪で、ただ一人、1分12秒台のタイムをマークする。対する斉藤は4番手。このままの順位なら箕輪の逆転タイトルが確定する。しかし第2ヒートに入ると、1分11秒台にタイムを入れるドライバーが相次ぐ展開に。逆に

箕輪はタイムを落としてしまう。ラストセツケンの斉藤は1分11秒台に入れて箕輪を逆転。大会は4位に終わったが、斉藤が2年ぶりに王座に返り咲いた。
優勝は地元中部のテクニシャンである森嶋昭時。ここ数年、全日本を“休戦”していたものの、かつては全日本ジムカーナの

21.22.23.2020年の全日本ジムカーナで最も注目を集めたのはPN2クラスのチャンピオン争い。NEWヒーロー小俣洋平（21.）が絶対王者、山野哲也（22.23.）に果敢な戦いを挑んだが、最終戦も僅差で制した山野がタイトル防衛に成功し、実に20回目となる全日本チャンピオンに輝いた。



ーパースターである山野哲也を抑えてチャンピオンを獲得した経歴の持ち主だ。全日本復帰2戦目での勝利は、速さ健在を強烈にアピールした。

一方、その山野も最終戦決戦に臨んだ。彼が戦うPN2クラスには、2019年まで4年連続で全日本王座を獲得してきた小俣洋平が2020年に移ってきた。小俣は“ポスト山野世代”を代表する一人で、その戦いぶりは絶対王者山野も一目を置いているドライバーだ。

その小俣がシーズン開幕戦でいきなり山野を下したことで、いよいよ世代交代が到来かと周囲も色めき立ったが、その後の2戦は山野が地力を見せて連勝と巻き返し、優位に立ててこの最終戦を迎える形となった。
注目の第1ヒートでは先に走った小俣が、それまでの暫定ベストを1.5秒詰める1分11秒061をマークするが、山野は小俣のタイムを0.4秒削り取る1分10秒636をマークして貫禄を見せる。すべてが決する第2ヒートで小俣は渾身の走りで山野のタイムを大幅に凌ぐ1分10秒193を叩き出して最終走者、山野の走りを待った。そし

て、注目の山野のタイムは1分10秒159。0.034秒という僅差ながら小俣を下して、山野が4年連続、通算では実に20回目となる全日本タイトルを決めた。

SA・SAX1クラスでは若手二人の対決が決着した。ポイントリーダーで最終戦を迎えたのはその一人で前年のチャンピオン、四国の一色健太郎。開幕戦を制して、その後も2位、4位とポイントを重ね、大量のマージンを持ってイオックスに乗り込んできた。ライバルと目されてきた、もう一人の若手、小武拓矢は9月の九州ラウンドで優勝、10月の名阪ラウンドも2位を得たが、開幕戦のダブルペナルティによる僅か1ポイントが大きく響き、逆転タイトル獲得は至難の業と見られていた。

しかしながらイオックスでは一色が第1ヒートで暫定トップの小武に1秒以上も離される大ブレーキ。背水の陣で臨んだ小武が第2ヒートも自らのベストを更新して首位を守ったのに対して、一色はさらに順位を落として6番手に沈むことに。この結果、シーズン2勝目を挙げた小武が初の全日本タイトルを手にする事になった。



1,2. PN3クラスは、全日本タイトルを獲得したSA・SAX1クラスから移ってきた北陸の浦上真が僅か3戦目で新天地PN3での初勝利をさらった。3. PN3岡翔太は前戦に続く表彰台となる2位をゲットした。4. 全勝チャンピオンを狙ったPN1上野倫広だったが、2位。しかし2年連続の全日本タイトルを達成。5,6. PN2では細木智矢が約1年半ぶりとなる勝利を挙げ、喜びを爆発させた。7. デミオで孤軍奮闘するPN1太田智富も2019年以来となる勝利を獲得。8. PN2宝田ケンローは0.5秒及ばず、ライバル細木の後塵を拝したが、2年連続のタイトルを決めた。

JDTC

九州・恋の浦で決着の2020シーズン。1本勝負に賭けたドライバー達が勝利を手にした

2020年 JAF 全日本ダートトライアル選手権第2戦(最終戦)
RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU

開催日: 2020年10月24~25日 開催場所: スピードパーク恋の浦(福岡県福津市)

20年の全日本ダートトライアル選手権は、3月に京都コスモスパークで第1戦が行われ、シリーズが開幕したものの、その後はコロナ禍により、中止、延期が相次いだ。シリーズ中断は実に5か月に及び、8月になって北海道、オートスポーツランドスナガワで再開されたが、その後も中止が続き、4月から10月に延期された九州のスピードパーク恋の浦の一戦が3戦目として最終戦として開催される運びとなった。

スピードパーク恋の浦は九州を代表す

るダートトライアルコース。九州のダートトライアルは、福岡県大牟田市の有明海を望む、モビリティおおむた(旧三井三池オートスポーツランド)が長く主戦場として親しまれてきたが、コースが閉鎖となったため、2014年からは全日本ダートラの九州ラウンドも、この恋の浦で開催される形となった。恋の浦は、元々はモトクロス用に作られたコースを大幅に改修して作られたコースで、全国でも屈指の高低差を持つダイナミックなコースとして知られている。

おおむた時代の全日本戦は遠征組には

難攻不落のコースとして知られ、スポット参戦の地元勢が優勝をさらうケースも珍しくはなかったが、新天地恋の浦では、コースを知り尽くしているはずの地元勢がなかなか勝てない戦いが続いている。しかし、今回は地元勢が意地を見せた。

ともに1勝ずつを挙げた北海道の北條倫史と近畿の矢本裕之が最終戦で雌雄を決するNクラスは、地元の岸山信之がタイトルレースを繰り広げる二人を横目に第1ヒートでトップに立つ。岸山は2015年の恋の浦ラウンドでは2位を獲得したものの、過去2年間は3位止まり。しかし今回は2番手を2秒以上も突き離す快心の走りを披露する。第2ヒートでも、このスーパーバ

のタイムで逃げ切っ、悲願の地元での初優勝を獲得した。注目のタイトル争いは北條が3番手に付けたのに対して矢本は痛恨のドライビングミスで下位に沈んだため、北條が3年連続のタイトルを手にした。

このNクラスを始め、ランサー・エボリューションを駆るドライバー同士によるチャンピオン争いはSA・SAX2クラス、SC2クラスでも激戦が展開された。SA・SAX2クラスは5年ぶりの王座奪回を狙う荒井信介が2戦2勝と圧倒的優位のまま恋の浦に乗り込んできたが、第1ヒートでその荒井を0.066秒という僅差で凌いでトップタイムを奪ったのは同じ関東の林軍市だった。しかし第2ヒートに入ると林はタイムダウン。だが3戦全勝のフルポイントを狙った荒井もタ

イムアップは果たせず、第1ヒートの順位のままで競技は終了。林は全日本本格参戦8年目で待望の初優勝を獲得した。

一方、SC2クラスは、今季、3位、2位と着実にポイントを重ねた大西康弘が首位に立つが、開幕戦を制した上村智也、北海道ラウンドを制した杉尾泰之も虎視眈々と王座を窺う。第1ヒートを制したのは大西。この恋の浦は2015、2016年と連覇しており、相性は悪く



9. SA・SAX1クラスの2位にはクラッシュから懸命の修復で復活した中部のベテラン三枝光博が入り、健在ぶりをアピール。10,11. Nクラスでは福岡の岸山信之がホームコースでは初となる全日本の1勝をマーク。シリーズも2位まで浮上した。12. SA・SAX1の優勝は今季から全日本に復帰した外山嘉賢。いぶし銀ドライバーが完全復活だ。13. 影山浩一郎はNクラスで今季初の表彰台となる2位獲得。14. SA・SAX2の2位は開幕2連勝の荒井信介。全勝は果たせず、ランエボマイスターが5年ぶりに王座に返り咲いた。

参加17台と激戦区となったSA・SAX2クラスは
同じ関東の先輩である荒井信介を0.066秒凌い
だ林軍市が全日本初優勝を獲得した。



ないコースだ。だが第2ヒートに入ると1本目は6番手に沈んでいた杉尾が3.3秒もタイムを詰めていきなり首位に躍り出た。だがラストセクションの大西も負けじと応酬。杉尾を0.17秒上回って逆転に成功。自身初となる全日本タイトルを最高の形で決めることになった。

そしてトリを務めたDクラスもタイトル

争いが白熱した。ポイントリーダーは開幕戦の覇者、炭山裕矢だったが、5点差で田口勝彦が、7点差で谷田川敏幸が追う展開だ。もし炭山が3位以下に終わった場合、田口も谷田川も優勝すればタイトルが転がり込む。しかしこの三つ巴を横目に第1ヒートから圧巻のタイムを叩き出したのは前戦の覇者、鎌田卓麻だった。注目の第2ヒー

トは路面状況の変化により、4人ともタイムアップは果たせず。鎌田は唯一、このクラスで今季2勝目を飾るが、全日本ラリーと重なったため、開幕戦を欠場したことが響き、タイトル獲得はならず。最上位となる2位を獲得した炭山が逃げ切って、2年連続でこのスーパー激戦区であるDクラスを制することになった。



全日本初優勝の林軍市は錚々たるメンバーが揃うSA・SAX2クラスでランキング2位を獲得した。

15.16. SC2クラスは元全日本ラリーストの大西康弘が最終戦を制して初のタイトルを獲得した。**17.** SC1ではFTO使いの山下貴史が2012年以来となる勝利を飾った。**18.** SC1奥村直樹は開幕戦に続く2位をゲットした。**19.** SC2杉尾泰之は第2ヒートで2位までジャンプアップ。**20.** 優勝は果たせなかったものの、炭山裕矢は2年連続のDクラス王者を決めた。**21.22.** 今季の勝率は10割と文句ない走りを見せた鎌田卓麻。2021年こそリベンジを狙う。





2020 REVIEW

2020年全日本ラリー／ジムカーナ／ダートトライアル選手権シリーズレビュー

2020年のBライセンス競技の全日本選手権はいずれも新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を大きく受けたシリーズとなった。競技会の数は少なかったが、その分、取りこぼしはNGの白熱のバトルが展開された。一年を振り返ってみることにしよう。

JRC 全日本ラリー選手権 2020シリーズレビュー 3強の時代を突き崩した新井大輝が初のチャンピオンに

2020年の全日本ラリー選手権は計4戦で行われた。最高峰のJN1クラスは唯一、2勝を挙げた新井大輝が初のチャンピオンに輝いた。全日本の最高峰で新王者が誕生するのは2007年の勝田範彦以来で、実に13年ぶりの快挙だ。このクラスは2002年以来、勝田、奴田原文雄そして新井大輝の父親である新井敏弘の3名のいずれかがチャンピオンを獲得しており、新井大輝のチャンピオンは『3強』の時代に終止符を打ち込むものでもあった。

特にシリーズ後半の2戦は新井敏弘、奴田原文雄といった先輩との壮絶なバトルを制しての勝利であり、その意味でも世代交代を大きく印象付ける一年になった。



JN1クラスを制した新井大輝／小坂典嵩の二人はともに平成生まれの若きチャンピオンだ。



2020年JAF全日本ラリー選手権チャンピオン

クラス	ドライバー	車種名	ナビゲーター	車名
JN1	新井大輝 (初)	スバルWRX	小坂典嵩 (初)	スバルWRX
JN2	中平勝也 (初)	トヨタGT86 CS-R3	大矢啓太 (初)	トヨタ・ヴィッツGRMN
JN3	曾根崇仁 (3)	トヨタ86	竹原静香 (初)	トヨタ86
JN4	古川寛 (2)	スズキ・スイフトスポーツ	小藤桂一 (初)	スズキ・スイフトスポーツ
JN5	天野智之 (12)	トヨタ・ヴィッツ	井上裕紀子 (13)	トヨタ・ヴィッツ
JN6	明治慎太郎 (2)	トヨタ・ヴィッツ	里中謙太 (初)	トヨタ・ヴィッツ

※ () の数字はチャンピオン獲得回数

JN2クラスでも若手の中平勝也が初のチャンピオンに輝いた。中平の全日本初参戦は2017年でいきなりJN1クラスにエントリーした。目立った実績もなかった中平の挑戦は無謀と捉える向きもあったが、3年間、3強を始めとする手強い猛者達の中で揉まれた経験が彼のラリードライバーとしての実力を短期間で大きく底上げしたことは事実。その積み重ねが、初のタイトルをもたらしたと言ってもいいだろう。

またJN5クラスはこれまでとは様相を大きく異にする一年になった。結果だけを見れば絶対王者、天野智之がタイトルを守った形だが、連戦連勝を重ねてきた天野が2020年は半分しか勝てなかった。

満を持してこのクラスに移籍してきたJN6王者の大倉聡とヤリスを駆った小濱勇希が時にあっさりとな野を凌いで見せたスピードが、このクラスのバトルをこれまででなかった熱いものにした。2021年の展開も興味深いものになりそうだ。

JGC 全日本ジムカーナ選手権 2020シリーズレビュー 山野哲也を追い詰めた小俣洋平の健闘が光る

2020年の全日本ジムカーナの最大のトピックは、やはりJN2クラスの山野哲也vs小俣洋平の戦いだろう。全日本ジムカーナでは、これまでも何人もの実力のあるドライバー達が、『帝王』山野に果敢に挑んできたが、ことごとく最初から出鼻を挫かれ、敗退を余儀なくされるというパターンが繰り返されてきた。しかし、この直接対決の初戦を制して逆に山野の手鼻を挫いたのは小俣の方だったのだ。しかもすでに3シーズン、124スパイダーに乗ってきた山野に対し、小俣は124スパイダーでのデビュー戦だったのだから、周囲は大きくどよめいた。シリーズが終わってみたいが山野が3連勝を飾って面子を守った形だが、最終戦は僅か0.034秒差での決着。すでに『RWDの帝王』



通算20回目のタイトルを決めた山野哲也。もちろん前人未踏の大記録だ。



2020年JAF全日本ジムカーナ選手権チャンピオン

クラス	ドライバー	車種名
PN1	斉藤邦夫 (12)	マツダ・ロードスター
PN2	山野哲也 (20)	アバルト124スパイダー
PN3	西野洋平 (3)	トヨタ86
PN4	野島孝宏 (2)	三菱ランサーエボリューションX
SA・SAX1	小武拓矢 (初)	ホンダCR-X
SA・SAX2	高江淳 (3)	ホンダ・インテグラタイプR
SA・SAX3	久保真吾 (2)	ロータス・エキシージ
SA・SAX4	津川信次 (9)	三菱ランサーエボリューションX
SC	西原正樹 (11)	スバルインプレッサ

※ () の数字はチャンピオン獲得回数

を不動のものにした感のある小俣だが、今後は山野の帝王学をどこまで身に付けられるかが課題かもしれない。

PN3クラスの86/BRZ勢とロードスター RF勢との闘いも昨年の全日本ジムカーナを盛り上げた。2019年までは、86/BRZ勢が優勢だったこのクラスだが、2020年はロードスター RF勢が開幕戦から連勝し、勢力図が塗り替えられるかと思われた。しかし後半2戦は86/BRZ勢が盛り返して連勝、チャンピオンも86の西野洋平がV2を達成した。2020年は地区戦でもロードスター RF勢が攻勢に出ることが多く、86/BRZ限界説が飛び交ったが、モデルチェンジが噂される現行86/BRZ勢の動きは要注目だ。

また2020シーズンで唯一、初のチャンピオンに輝いたSA・SAX1

クラスの小武拓矢の活躍も触れないわけには行かない。一戦も取りこぼしできない全戦有効という厳しい条件の中で、開幕戦は僅か1ポイントに終わるという、絶体絶命の窮地から挽回した小武の逆転タイトル劇は、これからも語り継がれるものになるだろう。

JDTC 全日本ダートトライアル選手権 2020シリーズレビュー 合計3戦のシリーズは王道を知る巧者がタイトルをさらう

順調に開幕できなかった全日本ラリー、全日本ジムカーナに対し、全日本ダートトライアルは当初予定通りのスケジュールで開幕したため、最もコロナ禍の影響を受けずにシリーズが進むと思われたが、終わって見れば3カテゴリー中最小の3戦によるシリーズとなってしまう。こうなるといかにコンスタントに好成績をキープできるかがタイトル獲得への最低条件で、事実、8名のチャンピオンの内、6名が3戦すべてで表彰台に乗るという抜群の安定感を示している。また過半数の5名のチャンピオンが開幕戦を制しているのも見逃せない。



チャンピオンの顔触れを見ても2年連続のチャンピオンが4名おり、ほとんどが全日本ダートラで豊富なキャ

全日本ダートラ期待の若手、宝田ケンシローは開幕2連勝を決め、2年連続4度目のタイトルを決めた。



2020年JAF全日本ダートトライアル選手権チャンピオン

クラス	ドライバー	車種名
PN1	上野倫広 (2)	スズキ・スイフトスポーツ
PN2	宝田ケンシロー (4)	スズキ・スイフトスポーツ
PN3	山崎利博 (4)	トヨタ86
N	北條倫史 (5)	三菱ランサーエボリューションX
SA・SAX1	葛西キャサリン伸彦 (初)	トヨタMR2
SA・SAX2	荒井信介 (10)	三菱ランサーエボリューションX
SC2	大西康弘 (初)	三菱ランサーエボリューションX
D	炭山裕矢 (5)	三菱ミラージュ

※ () の数字はチャンピオン獲得回数

ウンドに続く2連勝。タイトルを争ったライバルを横目に見せたその走りはDクラスのさらなるスピードアップを強烈に印象付けた。2021年は鎌田のリベンジに注目が集まることになりそうだ。

2021年の全日本選手権は、 こう変わる!

3月からいよいよ2021年の全日本選手権が幕を開ける。2020年はコロナ禍のため、シリーズの縮小を余儀なくされたが、2021年は本来の形でシリーズ開催を願いたい所だ。各シリーズの2021年の概要を解説する。



2021年の全日本ラリー&ジムカーナ&ダートトライアル選手権日程を一挙紹介

ジムカーナとダートトライアルは中部地区が全日本とJAFカップをともに開催

2021年のBライセンス競技の全日本選手権は、ラリーが全10戦、ジムカーナ、ダートトライアルが全8戦で行われる。全日本ラリーの開幕戦は中止となったが、第2戦新城ラリーは2020年同様、無観客で開催の予定だ。前半は舗装のラリーが5戦連続で続き、グラベルの3連戦をこなして最終戦は再び舗装という構成だ。全日本ダートトライアル選手権は長年に渡って北陸ラウンドを担ってきた石川の輪島市門前モータースポーツ公園の一戦が外れて、長野のモーターランド野沢が復活した。門前は地区戦と全日本の上位ランカーが集うJAFカップを担当する。全日本ジムカーナ選手権は中部ラウンドが最終戦となるが、会場がイオックスアローザから鈴鹿サーキット国際南コースへと変更となった。イオックスは門前と同様、JAFカップの会場となる。

2021年JAF全日本ダートトライアル選手権カレンダー

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月13～14日	FORTEC CUP 2021 in KYOTO	京都コスモスパーク(京都府)
第2戦	4月3～4日	RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU	スピードパーク恋の浦(福岡県)
第3戦	4月24～25日	DIRT-TRIAL in NASU	丸和オートランド那須(栃木県)
第4戦	5月29～30日	北海道ダートスペシャル in スナガワ	オートスポーツランド スナガワ ダートトライアルコース(北海道)
第5戦	6月19～20日	2021年東北ダートトライアル IN KIRIYANAI	サーキットパーク 切谷内(青森県)
第6戦	7月10～11日	NOZAWA ダートトライアル	モーターランド野沢(長野県)
第7戦	9月4～5日	スーパードライアル in 今庄	オートパーク今庄(福井県)
第8戦	10月9～10日	NANO TOPカップダートトライアル in タカタ	テクニクスステージ タカタ(広島県)
JAF CUP	11月13～14日	2021年JAFカップ オールジャパンダートトライアル	輪島市門前モータースポーツ公園(石川県)

2021年JAF全日本ラリー選手権カレンダー

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦**	2月4～7日	Rally of Taumogoi-中止	群馬(450km)舗装・積雪
第2戦	3月19～21日	新城ラリー2021 Supported by AICELLO	愛知(400km)舗装
第3戦	4月9～11日	ツールド・九州2021 in 唐津	佐賀(350km)舗装
第4戦	5月2～4日	久万高原ラリー	愛媛(250km)舗装
第5戦*	5月21～23日	RALLY丹後2021	京都(300km)舗装
第6戦	6月11～13日	MONTRE2021	群馬(450km)舗装
第7戦	7月2～4日	2021ARK ラリー・カムイ	北海道(500km)未舗装
第8戦	8月20～22日	横手ラリー2021	秋田(350km)未舗装
第9戦**	9月10～12日	RALLY HOKKAIDO	北海道(1000km)未舗装
第10戦	10月15～17日	第48回MCSCLラリー・ハイランドマスタース2021	岐阜(400km)舗装

* ** : FIA Asia Pacific Rally Championship 併催

* : JAF中部・近畿ラリー選手権 併催

2021年JAF全日本ジムカーナ選手権カレンダー

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月28日	もてぎスーパースラローム2021	ツインリンクもてぎ 南コース(栃木県)
第2戦	4月17～18日	オールジャパンジムカーナ イン エビス	エビスサーキット 西コース(福島県)
第3戦	5月15～16日	ジムカーナ IN TAKATA	TSタカタサーキット(広島県)
第4戦	6月5～6日	ALL JAPAN GYMKHANA in 名阪まほろば決戦	名阪スポーツランド Cコース(奈良県)
第5戦	6月26～27日	北海道オールジャパンジムカーナ	オートスポーツランド スナガワ ジムカーナコース(北海道)
第6戦	7月17～18日	スーパースラローム IN 久万高原	ハイランドパークみかわ ジムカーナコース(愛媛県)
第7戦	9月11～12日	オールジャパンジムカーナ in 九州	スピードパーク恋の浦(福岡県)
第8戦	10月2～3日	NRC鈴鹿BIGジムカーナ	鈴鹿サーキット 国際南コース(三重県)
JAF CUP	11月6～7日	2021年JAFカップオールジャパンジムカーナ	イオックスアローザ スポーツランド(富山県)



ラリー北海道は総距離1,000kmを予定し、シリーズ中で最大の規模を誇る。



全日本ジムカーナは、全日本カートも開催される鈴鹿南コースの一戦が復活。



モーターランド野沢の一戦も復活する。2021年も豪快な走り期待できそう。

2021年全日本ラリー & ジムカーナ & ダートトライアル選手権規定の変更点は!?

全日本ジムカーナ&ダートラはクラス分けが大変更。 順位決定方式も新たな試みが認められることに

2021年は全日本ジムカーナ／ダートトライアル選手権のクラス分けが大きく変更される。これまでの部門分けをなくして、すべてのクラスを『JG-』『JD-』という名称に改めた。またAT限定免許でも参加できるクラスを2駆／4駆の2クラス新設し、ハイブリッド車等を対象としていたAE部門も、駆動方式別にこの新たなクラスに組み込まれることになった。全日本ダートラは名称は変わったが基本的には従来と同一のクラス分けだが、全日本ジムカーナは昨年まで設定されていた、最も改造範囲が広いSC部門のうち、4駆のSC車両はJG1クラスへ、2駆のSC車両はJG2クラスへ統合されることになった。

また全日本ジムカーナ／ダートトライアル選手権については、順位決定方式に新たな選択肢が追加された。この二つのシリーズは2020年までは2本の決勝トライを行い、良かった方のタイムで順位を決定していたが、2021年から2本合計のタイムで順位を決定する方式も主催者が選べるようになった。合計で競う方式となれば、天候や路面の悪化で第2ヒートのタイムが上がらず実質的には第1ヒートのタイムで決まるようなケースがなくなることになる。主催者の対応が注目される所だ。

2021年JAF全日本ラリー選手権クラス分け

JN-1クラス	気筒容積が2500ccを超える4輪駆動のRJ車両、4輪駆動のR車両
JN-2クラス	気筒容積が2500ccを超える2輪駆動のRJおよび2輪駆動のR車両
JN-3クラス	気筒容積が1500ccを超え2500cc以下の後輪駆動のRJ、RPN車両
JN-4クラス	気筒容積が1500ccを超え2500cc以下の前輪駆動および4輪駆動のRJ、RPN車両
JN-5クラス	気筒容積が1500cc以下のRJ、RPN車両
JN-6クラス	気筒容積が1500cc以下のRPN(ATに限定)およびAE(気筒容積別区分なし)車両



2021年JAF全日本ジムカーナ選手権クラス分け

2021年	
JG1クラス	4輪駆動のSA・SAX・SC車両
JG2クラス	後輪駆動のSA・SAX車両。2輪駆動のSC車両
JG3クラス	気筒容積1600ccを超える前輪駆動のSA・SAX車両
JG4クラス	気筒容積1600cc以下の前輪駆動のSA・SAX車両
JG5クラス	JG6、JG7およびJG8に該当しないPN車両
JG6クラス	気筒容積1600ccを超え2000cc以下の2輪駆動(FR)のPN車両のうち、FIA/JAF公認発行年またはJAF登録年が2012年1月1日以降の車両
JG7クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FF、FR)のPN車両
JG8クラス	気筒容積1600cc以下の2輪駆動(FF、FR)のPN車両
JG9クラス	オートマチック 限定免許で運転できる4輪駆動のP・PN・AE車両
JG10クラス	オートマチック 限定免許で運転できる2輪駆動のP・PN・AE車両

2021年JAF全日本ダートトライアル選手権クラス分け

2021年	
JD1クラス	D車両
JD2クラス	4輪駆動のSC車両
JD3クラス	2輪駆動のSC車両
JD4クラス	4輪駆動のSA・SAX車両
JD5クラス	2輪駆動のSA・SAX車両
JD6クラス	N車両
JD7クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FR)のPN車両
JD8クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FF)のPN車両
JD9クラス	気筒容積1600cc以下の2輪駆動のPN車両
JD10クラス	オートマチック 限定免許で運転できる4輪駆動のP・PN・AE車両
JD11クラス	オートマチック限定免許で運転できる2輪駆動のP・PN・AE車両

2020年

PN部門	
PN1クラス	気筒容積1600cc以下の2輪駆動(FF、FR)のPN車両
PN2クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FF、FR)のPN車両
PN3クラス	気筒容積1600ccを超え2000cc以下の2輪駆動(FR)のPN車両のうち、FIA/JAF公認発行年またはJAF登録年が2012年1月1日以降の車両
PN4クラス	クラス1、クラス2およびクラス3に該当しないPN車両
SA・SAX部門	
SA・SAX1クラス	気筒容積1600cc以下の前輪駆動のSA・SAX車両
SA・SAX2クラス	気筒容積1600ccを超える前輪駆動のSA・SAX車両
SA・SAX3クラス	後輪駆動のSA・SAX車両
SA・SAX4クラス	4輪駆動のSA・SAX車両
SC部門	(クラス区分なし)
AE車両部門	(クラス区分なし)

2020年

PN部門	
PN1クラス	気筒容積1600cc以下の2輪駆動のPN車両
PN2クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FF)のPN車両
PN3クラス	気筒容積1600ccを超える2輪駆動(FR)のPN車両
N部門	(クラス区分なし)
SA・SAX部門	
SA・SAX1クラス	2輪駆動のSA・SAX車両
SA・SAX2クラス	4輪駆動のSA・SAX車両
SC部門	
SC1クラス	2輪駆動のSC車両
SC2クラス	4輪駆動のSC車両
D部門	(クラス区分なし)
AE部門	(クラス区分なし)

GRヤリス&ヤリスが2021全日本に続々参戦

今年はヤリス旋風 が吹き荒れそう!?

2020年、国内でも販売が開始されたGRヤリスは、トヨタがWRCで得た知見を投入した直系モデルとして熱い注目を浴び続けている。国内モータースポーツ界でもデビューを果たしたが、2021年は各カテゴリーで有力ドライバーがGRヤリスを投入する予定で、そのポテンシャルが大きな注目を集めそうだ。その動向をちょっと探ってみよう。

GR YARIS

勝田範彦がTOYOTA GAZOO RacingからGRヤリスで参戦

まず全日本ラリー選手権では過去8度の全日本タイトルに輝く勝田範彦が、今年からGRヤリスをドライブすることがTOYOTA GAZOO Racingから発表された。同チームでヴィッツGRMNを駆り、2019年にチャンピオンを獲得した眞貝知志もGRヤリスをドライブする2台体制となる。2020年の全日本ラリー最終戦でGRヤリスを投入したCUSCO RACINGも継続参戦の予定(ドライバーは未定)。同じくこのラリーでGRヤリスをデビューさせた福永修も参戦が予想され、JN1の常連、徳尾慶太郎もランサーからGRヤリスにスイッチする予定だ。さらに2019年

JN3王者の山本悠太や2015年JN4王者の石川昌平といった若手実力派も、JN1にGRヤリスとともにステップアップする見込みだ。

一方、全日本ジムカーナ選手権では2020年の最終戦で表彰台にあと一步の4位入賞を果たした片山誠司が再びGRヤリスをドライブ。また片山が参戦するJG5クラスには、2019年までこのクラスを3連覇した全日本ジムカーナを代表するトップドライバーの一人、茅野成樹がGRヤリスで参戦予定。2015年から全日本を3連覇した朝山崇も折茂紀彦とのWエントリーでGRヤリスを駆る予定だ。そして2020年のSC



1.2.3. TOYOTA GAZOO Racingが2台のGRヤリスを全日本ラリーに投入(1.). ドライバーは勝田範彦(2.)と眞貝知志(3.)が務める。4. 山本悠太は2020年同様、k-oneレーシングチームから参戦する。5. 石川昌平はARTAオートボックスラリーチームからの参戦になる。6. 2020年の最終戦唐津で柳澤宏志がドライブしたCUSCO RACINGのGRヤリスも継続参戦の予定だ。7. 同じく唐津でデビューした福永修のGRヤリスも引き続き、全日本に参戦の予定だ。

クラス王者の西原正樹も改造車に仕立てたGRヤリスでJG1クラスにエントリーする予定だ。

2021シーズンからGRヤリスがデビューする全日本ダートトライアル選手権では、2015年からV3獲得の黒木陽介、2020年の最終戦を制した岸山信之らのランサ

ー使いがGRヤリスに変更予定。そしてスィフトスポーツで全日本V2達成の宝田ケンシローもいよいよこの4WDマシンを駆る予定だ。なお2020年、全日本ジムカーナでGRヤリスをいち早くデビューさせた九州の井上博保も2021年は全日本ダートラでGRヤリスをドライブする予定だ。



8.~10. 全日本ジムカーナではSCクラス王者、西原正樹(8.)や茅野成樹(9.)そして2020年からGRヤリスを駆る片山誠司(10.)らがGRヤリスで戦う。11.~14. 昨年の全日本ダートトライアルの浦ラウンドではGRヤリスがテスト走行したが(14.)、実戦のデビューは2021年シーズンから。宝田ケンシロー(11.)、岸山信之(12.)、黒木陽介(13.)といった実力派ドライバーがGRヤリスを操る予定だ。

YARIS

2WDのヤリスも全日本の頂点を狙う!

全日本ラリー選手権に2020年からデビューしたヤリス(1,500cc)は、最終戦で2クラスを制するなど、その高いポテンシャルに注目が集まっている。JN5クラスで小濱勇希が最終戦ツール・ド九州in唐津でヤリスに初勝利をもたらしたMATHEX-AQTECラリーチームは、2021年も

ヤリスを投入し、小濱が果たせなかったシリーズチャンピオンを狙う見込みだ(ドライバーは未定)。

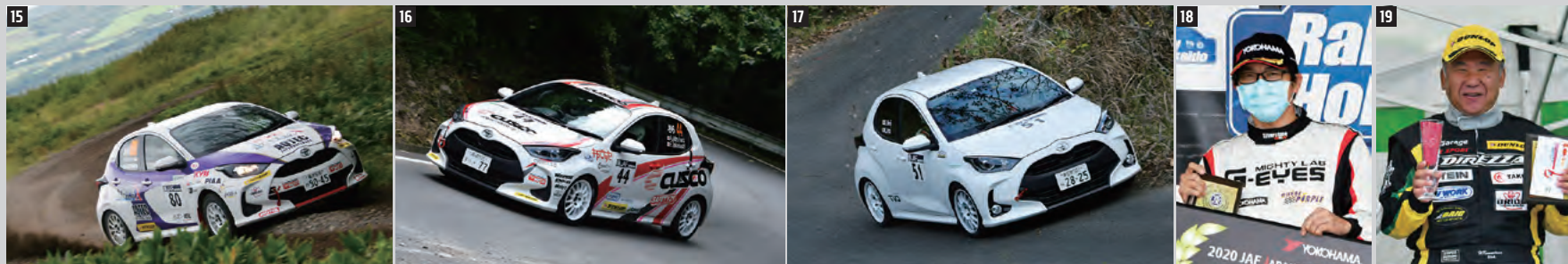
また同じ最終戦唐津で、JN6クラスでレディスドライバーの水原亜利沙がヤリスとともに自身の全日本初優勝を飾ったCUSCO RACINGも、引き続きヤリスCVTを

投入する予定だ(ドライバーは未定)。このJN6クラスをヴィッツCVTで制した明治慎太郎も、ヤリスCVTに乗り換えて2連覇を狙う予定だ。なお2020年のJN5クラスの王者でヴィッツマイスターの天野智之もGRヤリスへの車両変更も含め、その動向が注目されている一人だが、「ヤリスはCVT車も含め、非常に興味はある」としており、次期戦闘機の有力な選択肢の

一台ではあるようだ。

また2021年は全日本ダートトライアル選手権にもヤリスが登場する。ドライバーは過去5回、全日本チャンピオンに輝いたFFスペシャリストの川島秀樹。そして北海道の若手有望株、徳山優斗も新たにヤリスで全日本を追う予定だ。スィフトスポーツ、デミオそしてフィットとの闘いとなるが、その結果が今から注目される。

15. 小濱勇希が硬軟選ばぬ速さを見せて最終戦を制したMATHEX-AQTECラリーチームは2021年もヤリスを擁して全日本に挑む。16. 同じく2020年の最終戦で水原亜利沙がヤリスCVTで初優勝を飾ったCUSCO RACINGも引き続き、参戦の予定だ。17.18. 2度目のチャンピオンをさらった明治慎太郎はヤリスCVTに乗り換えてV2を狙う。19. 全日本ダートラで過去5度の全日本タイトルを持つ川島秀樹がヤリスにマシンをチェンジする。



オートテストに チャレンジしよう!

キミは、モータースポーツの体験イベントとして人気上昇中のオートテストを知っているかな。レーシングスーツやヘルメットなどの専用装備は必要ナシ。ライセンスがなくても参加できる。ぜひ一度、このお手軽モータースポーツにチャレンジしてみよう。



オートテストは英国発祥のモータースポーツで、日本には2015年から導入された。コースの面積が200m×200m以内と決められているため、商業施設の駐車場などでもよく開催されている。規則もユニークで、最低1回はバックギヤを使う設定としなければならないため、オートテストでは、『ガレージ(車庫入れ)』がある。また2本のパイロンの間を、前輪か後輪のど

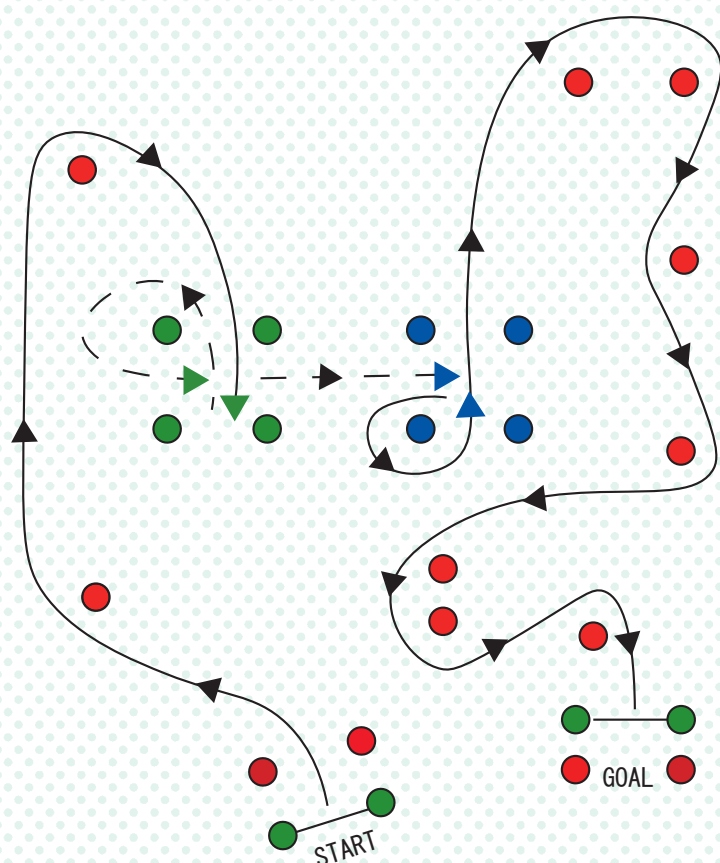
ちらかで通過して一旦停止する『ラインまたぎ』もよく設定される。

オートテストは、『ガレージ』や『ラインまたぎ』とパイロンスラロームを組み合わせる設定が一般的なので、ジムカーナドライバーが有利なのは、と思う人もいるかもしれないが、オートテストでは、サイドブレーキを使ういわゆる“サイドターン”をしないと回れないような設定はご法度で、

ほとんどのオートテストはサイドターン自体を禁じている。また、コンパクトなスペースで競われるためクルマのパワー差で勝負がつくことも、まずない。つまり、クルマを正確にコントロールしたドライバーが勝つのがオートテストなのだ。今回は2020年9月に北海道で開催されたイベントを紹介しながら、オートテストを分かりやすく解説してみることにしよう。



道南を代表する観光地、大沼に程近いレジャーランド、グリーンピア大沼の駐車場が今回の会場。オートテストはこうした駐車場でもよく開催される。



オートテストin函館

開催日: 2020年9月26日 開催場所: グリーンピア大沼特設コース

今回のコースは、スタート後、2本のパイロンをクリアした後にまず緑の4つのパイロンで囲われたスペースに前進で車庫入れを行う。その後、ハンドルを切りながらバックで今度は青いパイロンで囲われたスペースに向かう(点線の部分がバックギヤを使う区間)。ここは最初の2本の青のパイロンの間を後輪を通過させればOK(ラインまたぎ)。そこから前進となり、青パイロンで囲われたスペースを抜けた後にパイロンスラロームをこなしてゴールという設定になる。バックで270度回転する設定がポイントだが、最近はこの設定も増えている。



街乗りのクルマで参加できるのがオートテストのいい所だ。もちろんAT車でも十分に楽しめる。



走行の前には歩いてコースをチェックできる『慣熟歩行』の時間がある。今回は練習走行の時間も設けられた。



走行前にはドライバーズミーティングが行われ、走行時の注意点やフラッグ(信号機)の意味などが説明される。



車庫入れやラインまたぎをミスなくクリアできた時は緑旗が上がるが、不十分な場合は黄旗が上がりペナルティが付く。



オートテストにはギリギリを狙わないとクリアできないようなシビアな設定はない。まずは落ち着いてトライしてみよう。



今回はJMRC北海道オートテストシリーズとのWタイトル戦。MINIで総合優勝した大井進一選手は北海道の第一人者だ。

参加者の皆さんに聞いてみました!



家から近いのが何より!

伊藤貴弘さん、中村卓司さん、菊地秋山さん(左から)は地元函館在住。菊地さんは「モータースポーツの競技は30年ぶり(笑)。バックギヤで走るのが面白い」。伊藤さんは「きっちり一度止まるというのが逆に難しかった」。道央で行われる公認競技に参加中の中村さんは「自宅から日帰りで行けるこういうイベントを待っていました。また出たいです」と大歓迎。



パーツを付けて良かったです

ノートe-POWERで参加した、ましゃさん。「実はクルマにパーツを取り付けて捕強しているんですが、ここなら限界走行できると思って参加しました。クルマが明らかにさっぱり曲がってくれたので、パーツの効果を確認できて良かったです(笑)。会場の規模も丁度いい広さで良かったですね」。



コースも覚えられました

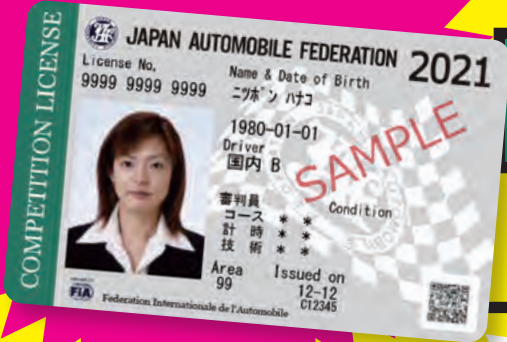
セリカで参加した今泉俊彦さんはこの日がオートテスト初体験。「普段の運転では体験できないクルマの未知の領域を感じたくて参加しました。タイヤの限界を感じ、ロールするのが新鮮で面白かったです。コースも意外と覚えられたので、最後は運転だけに集中して思い切り走れました」。

オートテストの開催情報は、 JAFモータースポーツホームページでCHECK!

全国各地のオートテストの開催情報は、JAFモータースポーツホームページに載っているので、最寄りの地区の開催情報を調べてみよう。オートテストのページでは、開催情報のほかにも、オートテストの競技の概要について動画などでも紹介しているので、ぜひチェックしてみよう。



JAFモータースポーツホームページ <http://jaf-sports.jp/>



JAF・Bライセンスを取得して モータースポーツにデビューしよう!

ラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなど、モータースポーツを始めるには「Bライセンス」が必要だ。
このライセンスはカンタンに取得できるので、競技に参加してみたい人はぜひ挑戦してみたい欲しい。

Bライ取得の第一歩を踏み出そう!

Bライセンスはラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなどのJAF公認競技会に参加するために必要なライセンスで、JAFが発給を行っている。Bライセンス講習会は全国各地で開催されている。これからモータースポーツを始めたいという人は、まず取得に向けて受講してみよう。

誰でもカンタンな講習会とは?

Bライセンス講習会というのは約2時間ほどの講習を受けるだけで、競技ライセンス取得の権利を得られるというカンタンなものなので、難しく考える必要はない。受講資格は普通自動車運転免許証を持っているJAF個人会員であることが条件だが、講習会当日にJAF会員になることも可能なので、JAF会員ではない人も安心して講習会に参加できる。なおJAF個人会員の入会費用は入会金¥2,000円+年会費¥4,000円となっている。

週末のほか平日夜でも開催している

講習会が開催される日程については、JAF個人会員に届く機関誌「JAFメイト」に掲載されている。その他、JAFホームペー



JAFホームページ「ご当地情報」等でモータースポーツ講習会の日程が確認できる。



講習会では競技に役立つ規則等を、約2時間でレクチャーしてくれる。



分かりやすいテキスト等を用いてルールをしっかりと学ぶことができる。

ジの「ご当地情報」等にも掲載されているので、チェックしてみよう! この講習会は大半が土・日・祝日に行われているが、中には平日夜に開催されるケースもある。また競技会の見学会とセットになった講習会をJAF地方支部が企画して行われることもあるので、モータースポーツの雰囲気を感じながら受講してみるのもひとつの方法だ。

モータースポーツの基礎を学ぼう!

さて気になる講習会の内容は、モータースポーツの競技規則、マナーやルール等を、テキストや映像でレクチャーするもので、実技や試験があるわけではない。ただし、赤旗や黄旗の意味などは競技参加時には必ず知っておかなければならないものなので、しっかり聞いて覚えておこう。なお講習会の費用は受講料が¥4,100円以内、教材費が¥1,000円以内となっている。

JMRCのホームページを活用しよう!

競技会に参加する際に頼りになるのがJMRC (JAF登録クラブ地域協議会) のホームページだ。初心者・中級者が対象の競技会情報等も掲載されているので、自分のスキルに合った大会を探し出すことができる。各シリーズの日程や規則、JAF登録クラブ・団体への連絡先も網羅されているので、Bライセンスを取得したらブックマークに登録しておくとも良いかも!

ライセンスは2〜3週間で届く

講習会が終わると、最後に「ライセンス交付申請書」がもらえるので、必要事項を記入して写真と申請料¥3,100円を添えて、30日以内に最寄りのJAF支部に申請すればOKだ。JAF支部に行けないという人は、講習会の主催者が代理で申請してくれるケースもある (別途、手数料が必要な場合あり)。そして申請後、約2〜3週間でライセンスが手元に届く。写真が入った自分だけのライセンスだ。

競技情報はホームページでチェック

競技会の日程、モータースポーツの各種情報についてはJAFモータースポーツホームページに掲載されているので、ぜひ活用してみたい欲しい。きっとキミのモータースポーツライフを充実したものしてくれるはずだ。

JMRC 北海道	http://jmrc-hokkaido.org/
JMRC 東北	http://jmrc-touhoku.com/
JMRC 関東	http://www.jmrc-kanto.org/
JMRC 中部	http://www.jmrc-chubu.jp/
JMRC 近畿	http://www.jmrc-kinki.net/
JMRC 中国	http://jmrc-chugoku.org/
JMRC 四国	http://jmrc-shikoku.gr.jp/
JMRC 九州	http://www.jmrc-kyushu.gr.jp/

全国 JAF 公認 B ライセンス 競技 コース 一覧

2020年1月1日現在

ジムカーナコース

オートスポーツランドスナガワ ジムカーナコース (北海道・砂川市)
新千歳モーターランド・アクティブ・セーフティ・パーク (北海道・千歳市)
十勝スピードウェイ ジュニアコース/ジムカーナコース (北海道・更別村)
岩木山スキー場駐車場 (青森・弘前市)
モーターランドSP (青森・南部町)
スポーツランドSUGO 西コース (宮城・村田町)
新協和カートランド (秋田・大仙市)
エビスサーキット ジムカーナコース/西コース (福島・二本松市)
茨城中央サーキット (茨城・石岡市)
筑波サーキット コース1000/ジムカーナ場 (茨城・下妻市)
ツインリンクもてぎ マルチコース/南コース (栃木・茂木町)
日光サーキット (ドリフト競技に限定) (栃木・宇都宮市)
宝台樹スキー場・駐車場 (群馬・みなかみ町)
浅間台スポーツランド (千葉・香取市)
R-Spec Kakizaki (新潟・上越市)
スピードパーク新潟 (新潟・胎内市)
日本海間瀬サーキット (ドリフト競技に限定) (新潟・新潟市)
さくらモータースポーツランド (長野・飯田市)
イオックスアローザスポーツランド (富山・南砺市)
大日スポーツランド (石川・白山市)
福田自動車教習所 (静岡・磐田市)

富士スピードウェイ ジムカーナコース/ショートサーキット (静岡・小山町)
キョウセイドライバード (愛知・岡崎市)
幸田サーキット YRP 桐山 (愛知・岡崎市)
スバ西浦モーターパーク (愛知・蒲郡市)
美浜サーキットクニモト (愛知・美浜町)
鈴鹿サーキット 国際南コース (三重・鈴鹿市)
奥伊吹モーターパーク (滋賀・米原市)
舞洲スポーツアイランド (大阪・大阪市)
姫路セントラルパーク 第5駐車場 (兵庫・姫路市)
名阪スポーツランド Cコース/Eコース (奈良・山添村)
備北サーキット (岡山・新見市)
なださきレークサイドパーク (岡山・岡山市)
スポーツランドTAMADA (広島・広島市)
TSタカタサーキット (広島・安芸高田市)
徳島カートランド (徳島・吉野川市)
瀬戸内海サーキット (愛媛・西条市)
ハイランドパークみかわ ジムカーナコース (愛媛・久万高原町)
モーターランドたちかわ (高知・大豊町)
スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)
HSR九州ドリームコース (熊本・大津町)
オートボリス レイクサイドサーキットコース (大分・日田市)

ダートトライアルコース

オートスポーツランドスナガワ ダートトライアルコース (北海道・砂川市)
糠平湖氷上コース (北海道・上士幌町)
イーストジャパンオフロードスタジアム (北海道・士幌町)
サーキットパーク切谷内 (青森・五戸町)
エビスサーキット 西コース (福島・二本松市)
丸和オートランド那須 (栃木・那須塩原市)
オートランド千葉 ダートトライアルコース第1コース (千葉・千葉市)
NATSダートコース (千葉・成田市)
モーターランド野沢 (オートクロスコースとしても公認) (長野・野沢温泉村)
輪島市門前モータースポーツ公園 (石川・輪島市)
オートパーク今庄 (福井・南越前町)
池の平ワンダーランド (愛知・豊田市)
京都コスモスパーク (京都・京都市)
テクニクスステージタカタ (ツイントライアル可) (広島・安芸高田市)
楠ハイランドパーク (山口・宇部市)
香川スポーツランド (香川・さぬき市)
スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)

本誌の記事内容は2021年1月29日までの情報を元にしております。社会情勢によって掲載した情報内容が変更される可能性がございます。予めご了承ください。

CLUB B は
WEBでも見えます!

本誌「CLUB B」34はWEBでもご覧になれます。これまでのバックナンバーも掲載していますので、下記のホームページをご参照ください。
JAFメディアワークスホームページ <http://www.jafmw.co.jp/>

CLUB B 34
Bライセンスモータースポーツ
応援マガジン

発行所
発行人
編集人

株式会社JAFメディアワークス
〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9-10F
西岡 敬明
佐藤 均

デザイン 鎌田 偉
編集 株式会社JAFメディアワークス
☎03-5470-1712
本誌掲載の記事や写真の無断複写・複製・転載を禁じます。

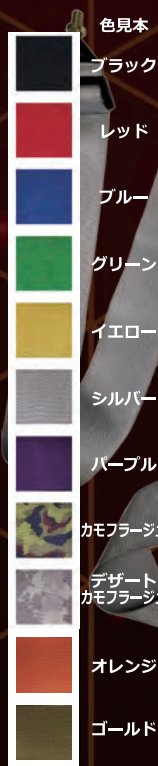
HPI

"トヨタ86、スバルBRZ用 強化トランスミッション" 86/BRZ ADVANCED TRANSMISSION

86/BRZのウィークポイントであるトランスミッション。
これは主にメインシャフトとカウンターシャフトが前後にズレてしまい、ギヤの噛み合う面積が少なくなり破損することにあります。
これに対して基本構造を見直しギヤの噛み合う面積を保持する為に、メインシャフトとカウンターシャフトが前後にズレないように対策し組み直しました。さらにミッション部品も純正ギヤと弊社独自対策品を組み合わせ製作しクリアランスを最適化する事で高出力車にも対応可能とした強化トランスミッションになります。

■86/BRZ用強化トランスミッション ¥580,000+税

※ご購入の際は別途特別送料5000円が必要となります。北海道、沖縄・離島除く



11Color!!

RACING HARNESS

■レーシングハーネス ¥29,800+税~

FIA規格適合

4点式は日本車（右ハンドル車両）の場合、バックルが腰ベルトの外側もしくは内側に残る"外側バックル（L）"と"内側バックル（R）"がお選びいただけます。センターコンソールが狭い車両などは外側バックルが使いやすい場合もございます。FHR 対応 6点式は股下バックルとなっており左右設定はございません。

FLOOR BAR

■フロアバー ¥22,000+税~

特許取得済 特許第 5792371 号

6点式ハーネスを車両無加工で取り付けることができ車両価値をさげません。特許取得のHPIフロアバーは某レースレギュレーションでも公認の高剛性で左右セットで取り付けすることで車両剛性をアップさせます。

スィフト (ZC32S,ZC33S)
フェアレディ Z33

近日発売!

シーズン開幕直前!!
モータースポーツを揃えて楽しもう!!



- レーシングスーツ ¥72,000+税~
- レーシンググローブ ¥18,000
- レーシングシューズ ¥23,000+税
- ヘルメット ¥14,800+税
- FHR システム ¥40,000+税~

HPI CIRCUIT MEETING 2021 in 袖ヶ浦FRW

第5回
3/28
Sun

第6回
7/18
Sun

第7回
11/21
Sun

詳しくはホームページまで

入場無料

www.hpi.co.jp



ADVAN CUSCO YARIS GR4



競技専用品

- フロント：全長調整式車高調整、リヤ：ネジスペーサー車高調整
- 単筒式大容量ショックアブソーバー
- アッパーマウントレス ●ラム式構造（フロント）
- 高性能ニードルバルブ式 前・後減衰力24段階調整
- 横G、ブレーキ時のGに威力を発揮する高剛性ナックルブラケット
- フロントロウブラケットキャンバー調整式（キャンバー調整カラー）
- 完全受注製作：購入時に減衰、ストロークの指定可能
- オーバーホール（減衰力、ストローク変更可能）対応
- ※スプリングはキットに含まれません（別売設定）
- ※JAF公認競技Nクラス向けに純正形状アッパーマウントに対応
- ※センターロックピロアッパーマウント（別売）に対応



フロントロウブラケット
キャンバー調整カラー



別売品

センターロックピロボールアッパーマウント
ノーマルのゴムブッシュマウントをピロボール化する事で、不要な動きを抑制しシャープかつダイレクトなハンドリングを実現します
※ノーマルアッパーマウント装着時より車高が5mm低くなります



- Sタイア（セミスリック）対応
本気でタイムを削るための2Way減衰力調整
- 別タンクなしで伸/圧減衰力の独立制御を実現
 - 伸側：24段 / 圧側：24段
 - 単筒式ショックアブソーバー
 - 全長調整式車高調整
 - ラム式（倒立式）ショックアブソーバー（フロント）
 - アッパーマウント標準装備（フロントはセンターロックピロボールアッパーマウント）
 - フロントキャンバー調整可能
 - CUSCO SPORT「Blue spring」を標準装備

伸側24段階調整ダイヤル
圧側24段階調整ダイヤル

CUSCO LSD

1つのLSDで2タイプの作動方式が選べる

4WD車には・・・○1Wayタイプ/1.5Wayタイプ→フロント（作動タイミングのカム角を選ぶ2カム方式）
○1&1.5Wayタイプ / 1.5&2Wayタイプ→リヤ

type-RS

→ LSD作動の方向 → インニシャルトルクの方

低インニシャルで作動、高レスポンス、耐久性抜群のtype-RS

- 低インニシャルでパワーロスも少なくローパワー車にもマッチ
 - 作動方向とインニシャル発生方向が一致しているため、作動も速くアクセルコントロールにもダイレクトに反応
 - 異音（チャタリングと呼ばれるバキバキ音）の発生を低減
- インニシャルトルクを、RSスプリングで内側から低インニシャルで発生させます



type-MZ

アクセルワークにリニアに反応するtype-MZ

- 高いコントロール性を誇るオーソドックスなコンプレート方式
- チューンドカーのハイパワーにも対応する高耐久性を実現

インニシャルトルクをコンプレートで両外側から発生させます



CUSCO RACING HARNESS



6-Point FHR
(6点式 FHRデバイス専用モデル)



FIA 8853-2016

ブルー BLUE

レッド RED

ブラック BLACK

税抜価格：¥44,000

- 肩ベルト：2-3inch
- 腰ベルト：3inch
- 股ベルト：2inch
- アイボルト6本付属
- CUSCOロゴ入りラバー製ワッペン



6-Point



FIA 8853-2016

ブルー BLUE

レッド RED

ブラック BLACK

税抜価格：¥44,000

- 肩ベルト：3inch
- 腰ベルト：3inch
- 股ベルト：2inch
- アイボルト6本付属
- CUSCOロゴ入りラバー製ワッペン



●乗降の際にゴム紐などで各ハーネスを吊り上げる事ができるように「サポートループ」標準装備

●乗降の際にゴム紐などで各ハーネスを吊り上げる事ができるように「サポートループ」標準装備

製品名	タイプ	商品コード	税抜価格
車高調整サスペンションキット			
CUSCO SPORT G (競技専用品)	ジムカーナ、ターマック競技用	1C7 64C SB0	¥238,000
	ラリー、ダートトライアル、グラベル競技用	1C7 64C LB0	¥238,000
CUSCO SPORT TN_R	減衰力 24段階調整 ×2WAY	1C7 64V CP	¥328,000
センターロック・ピロボールアッパーマウント (左右1セット)		1C6 6SR 01S	¥30,000

ガードシステム

フルガード (ダートトライアルタイプ ※リブ無し)	厚さ 5mm、ジュラルミン 17S 製	1C7 212 A	¥100,000
フロアガード	厚さ 3mm、ジュラルミン 52S 製	1C7 214 A	¥58,000
タンクガード	厚さ 3mm、ジュラルミン 52S 製	1C7 215 A	¥42,000

LSD フロント

Type-RS 1Way	カム角 35° or 45°	LSD 1C7 F	¥190,000
Type-RS 1.5Way	カム角 35/20° or 45/20°	LSD 1C7 V15	¥190,000

※Type-MZ と Type-RS スペック F、Type-MZ スペック F の設定もあります

LSD リヤ

Type-RS 1 & 1.5Way	1Way	カム角 45°	LSD 1C8 C	¥120,000
	1.5Way	カム角 55/20°	LSD 1C8 C15	¥120,000
Type-RS 1.5 & 2Way	1.5Way	カム角 55/20°	LSD 1C8 L15	¥120,000
	2Way	カム角 55/55°	LSD 1C8 L2	¥120,000

※Type-MZ の設定もあります

ロールケージ

2/4 名乗車、リヤ 4P	1C7 270 C20	¥50,000
2 名乗車、リヤ 5P	1C7 270 D20	¥62,000
2/4 名乗車、ダッシュ貫通 6P	1C7 290 E20	¥82,000
2 名乗車、ダッシュ貫通 7P	1C7 290 F20	¥94,000
2 名乗車、ダッシュ貫通 8P	1C7 290 G20	¥106,000
2 名乗車、ダッシュ貫通 9P	1C7 290 W9	¥116,000
2 名乗車、ダッシュ貫通 10P	1C7 290 W10	¥126,000
メインアーチ：φ45、t2.6、スチール製 フロントケージ：φ40、t1.6、クロモリ製 メインクロス、Fサイドクロス：φ40、t1.6、クロモリ製 ハーネスバー：φ40、t2.0、スチール製 その他：φ35、t1.5、クロモリ製	1C7 29W 20	¥350,000

ASN 公認ロールケージ (JAF 登録車両：J T-182)

φ40 スチール

リヤクロス設定可能

※取扱店限定品

※D1 ロールバー (4P~8P) の設定もあります。

SPORT TN_R 装着イメージ



ASN 公認ロールケージ装着イメージ



4-Point FIA APPROVED

ブルー BLUE

レッド RED

ブラック BLACK

税抜価格：¥32,000

- 肩ベルト：3inch
- 腰ベルト：3inch
- アイボルト4本付属
- CUSCOロゴ入りファブリック製ワッペン



Quick Change用 (クイックチェンジ)

CUSCO LSD

type-RS type-MZ

税抜価格 ¥265,000



ドリフト車両などに装着されている "Quick Change ディファレンシャル システム対応のCUSCO LSD

対応デフ仕様
Slicky Pro 1000 Quick Change 10" Rear
※日本国内ではD1やフォーミュラD車 両などに装着
Quick Changeディファレンシャルシステムとは、サーキットや走行ステージに合わせ、デフキャリアを分解することなく、リヤ側のカバーを外しドライブギヤおよびドリブンギヤを交換するだけで簡単にギヤ比の変更が可能なシステムです。
※弊社ではQuick Changeディファレンシャルの販売はしていません



CUSCO ウェブサイト

<http://www.cusco.co.jp>



株式会社キャロッセ 群馬県高崎市新保町1664-1 〒370-0018 Phone (027) 352-3578 (代) Facsimile (027) 352-1919

